

平成20年度における会頭メッセージ

いよいよ新年度が始まりました。

平成20年度は、円高・ドル安、株安、原油・原材料価格の高騰など、アメリカのサブプライムローン問題に端を発した世界経済の混乱により、売り上げの低迷、収益の悪化など、大変厳しい局面を迎えることとなります。会員企業の皆様には、顧客視点に立ち、特に為替に対しては自社のプラス・マイナス効果を正しく読み、中長期的視野にたった上で、適切に対処いただきたいと思います。また、京都経済全体を考えますと、知恵産業を中心とした産業振興策を、関西という広域的な経済圏を視野に入れながら今後の展開を図り、雇用を創出していくことが重要となります。

私は就任して以来、「知恵産業のまち・京都の推進」を基本方針として提唱してきました。知恵というのは身についた知識を使って、社会・産業・生活に役立てるための創意工夫・独創力を発揮することです。これからの社会では、この知恵が新たな価値創造の源泉となり、知恵を持った人間力こそが、収益性を高めるための重要な要素となります。私共京都には、あらゆる分野において高い人間力を持つ方を数多く有しているという地域の特性があります。それらの人間力を組み合わせることによって新たな知恵を生み出し、若い世代の人間力を養成していくことが、知恵産業創造の鍵になると考えております。

本所では、極めて不透明な経済局面の中で、昨年11月に策定いたしました「ニュー京商ビジョン」を、いよいよ具体的な施策に盛り込んで事業を推進してまいります。本年度の事業計画は、「知恵産業の創造」、「都市格の向上」、「より信頼され、魅力ある京商づくり」という3つの基本戦略に沿って、中小企業の振興、知恵ビジネスの育成、京都ブランドの推進、観光産業の推進など、事業の軽重を見極め、時間軸を見直して策定いたしました。京都が持つ地域の特性や資源を活かしながら、小さくとも元気があり、意欲のある企業や経営者を応援していきたいと考えております。

また、ビジョンの推進にあたり、事務局の機構改革も行いました。事務処理型から、事務処理をこなしながらも提案を行う体制を目指し、会議所独自の企画力、あるいは国・京都府・京都市への提言・要望活動をより強めるために、中長期視野に立ってビジョンの推進を進行管理する「企画室」、具体的な知恵ビジネス育成事業の実行部隊となる「知恵ビジネス推進室」を新たに設置するとともに、関連する事業は同じ部所で所管を集約するなど、組織のスリム化と効率的な事務分担を図りました。

ビジョンの中で組織運営を逆ピラミッド形で示しましたように、顧客を創造する会員企業が主役であるという意識のもと、全会員を対象とした「知恵産業・経営大会」の開催や、会議所の根幹をなす部会・委員会活動を積極的に行い、会員企業の参画機会を増やし、より信頼され魅力ある会議所を目指していきたいと思いをします。

是非、多くの皆様に本所の事業に参画いただき、ともに「知恵産業のまち・京都の推進」に取り組んでまいりましょう。

平成 20 年 4 月 1 日
京都商工会議所
会頭 立石義雄